

キャンベラ大学 語学研修体験報告書①

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 初等 専攻・コース 数学 学年 2年 氏名 江崎 優
留学・研修等の期間	2010年 2月 21日 ~ 2010年 3月 22日
留学・研修等の国、大学名	オーストラリア キャンベラ大学
留学・研修等の種類	語学研修
奨学金名（金額）	
留学・研修等の目的・動機	英語を上達させる為、他国の文化を学ぶ為
求められた語学力 及び具体的な準備内容	
留学・研修等の選考方法	
情報収集方法	知人から
語学クラスの状況 （人数、内容等）	20名
履修科目・内容	
先方大学等の 単位認定状況	
本学での単位認定状況	
学年歴 （学期・試験・休暇等）	
履修に関する留学先大学の サポート（チューター等）	
学習環境（図書館等）	
居住環境	ホームステイ
生活費（月額）	

物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	同じくらい（飲料の価格は高かった）
留学・研修等の必要総額 （渡航費、生活費を含む）	約40万
治安状況	
保険	
その他注意すべき事項	

留 学・語学研修等体験レポート（自由記述）

私が去年語学研修に参加したのは「行ってみたら？」と言われ、「じゃあ行ってみようかな。」とか、そんな軽い気持ちからだったと思います。知り合いが参加者に1人もいなかった為、正直最初の方は事前研修にもあまり気が乗っていませんでした。しかし、今の私にとってあの1ヶ月間は本当に良い思い出で、一緒に過ごした人達とは今でも仲良くしています。今年の人達は今オーストラリアに行っている最中で本当に羨ましく、もう1度行きたいと思えるくらいです。留学や語学研修に参加するか迷っている人の少しでも役に立つよう、私の楽しかった思い出と、今でも悔しく思っていることを書き、今後研修に行く人に参考にしていただきたいと思います。

オーストラリアでの日々は毎日が充実したものでした。3週目くらいの終末に私たちのクラスの一部でメルボルンへ旅行に行ったのですが、そのお陰で、コアラを見たり、キレイな夜景を見て感動したりすることができました。放課後にジャパンプラブの人にバーに連れて行ってもらって初めてビリヤードをしたりもしました。授業の一環として様々な場所を訪れたり、夜にはホストファミリーの元に帰ってご飯を食べたりと、ただ毎日を過ごすだけでも楽しく過ごせるのですが、如何に放課後や週末を過ごしたかで充実感は大きく違ってくると思います。1ヶ月間しかないオーストラリアでの生活なので、学校のない自由な時間を、できる限り有効に使っていただきたいと思います。

また、私が想像していた学校生活は、大学で現地の人々と同じ授業を受ける中で自然と友達を増やしていくといったものでした。しかし、向こうでの授業は私たちグループの為だけに行われるものである為、何もしなくてはクラス以外の友達が増えることはありません。ジャパンプラブの人達を中心に、自分から積極的に（ジャパンプラブの人達には日本語を話せる人もたくさんいましたが）英語で話しかけていけば、どんどん交友範囲を広げることができると思います。

そして私が何度も実感したのは、自分の英語力不足です。私は英語が得意というわけではなく、中学レベルの英語を片言でしか話すことができません。実際ホームステイをしてみても、伝えたい内容の10分の1くらいしか伝えることができず、何度ももどかしさを感じました。もっと英語を勉強しておけば良かった、日常生活で使えそうな単語をもっと調べておけば良かったと、1ヶ月の間に後悔した回数は数え切れないし、ホストファミリーに「日本人はシャイね」と言われて「もっと伝えたいことはあるのに」と悔しく思ったことは今でも忘れられません。

しかし、語彙力がなくて私が言葉に詰まっても、何度も聞いて一生懸命理解しようとしてくれ、私が英語を聞き取れない時には紙に書いてくれました。英語を話すことのできないこんな私にも、オーストラリアの人々はとても優しくしてくれました。言語はコミュニケーションの1つの方法に過ぎず、気持ちを伝え合う方法はたくさんあるのだと思いました。伝えたいという気持ちと、それを理解したいという気持ちさえお互いになれば絶対に伝わるのだから、伝えようとする気持ちが最も大切なのだと思いました。

伝えたいことはもっとあるのですが、たくさんありすぎて書ききれません。語学研修に行こうか迷っている人は、私みたいに軽い気持ちで参加してみてもいいかがでしょうか。必ず良い経験になるし、その経験によって将来したいことが見えたり、留学に行くきっかけになるかもしれないからです。

キャンベラ大学 語学研修体験報告書②

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	共生社会教育課程 国際共生教育コース 2年 神川 望
留学・研修等の期間	2010年 2月 21日 ~ 2010年 3月 22日
留学・研修等の国、大学名	オーストラリア キャンベラ大学
留学・研修等の種類	語学研修
奨学金名（金額）	
留学・研修等の目的・動機	異文化交流・体験、英語力の向上。
求められた語学力 及び具体的な準備内容	・日常会話ができる程度の英語。 ・事前にネイティブの先生によるオーストラリアの文化についての レクチャーを受けたり、特徴的なオーストラリア英語を少し勉強し たりしました
留学・研修等の選考方法	希望者
情報収集方法	担当の先生や前年度留学生の講演など
語学クラスの状況 (人数、内容等)	21人で1クラス
履修科目・内容	英会話、オーストラリア
先方大学等の 単位認定状況	
本学での単位認定状況	言語演習D 1単位、インテンシブ・リーディング1単位 計2単位を互換しました。
学年歴 (学期・試験・休暇等)	春休みを利用しての短期
履修に関する留学先大学の サポート（チューター等）	留学生担当の先生方、現地の学生に学習面、生活面においていろ いろとアドバイスを受けることができました。
学習環境（図書館等）	図書館、PC室、ラウンジなど、どれも充実していて使いやすかつ たです。
居住環境	ホームステイ
生活費（月額）	10万円程度（個人的な買い物や旅行も含む）

物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	飲食費が少し高いです。洋服、雑貨等は日本とあまり変わらない と思います。
留学・研修等の必要総額 （渡航費、生活費を含む）	45万円程度
治安状況	安全だと思います。
保険	AIU 海外旅行保険
その他注意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・水不足のため、シャワー等での水の使い過ぎには注意したほうがいいです。また飲料水は日本よりもだいぶ高いです。 ・オーストラリアは紫外線が強く、晴れの日が多いので日焼け対策を十分にしておくべきです。 ・日本の電化製品を使う場合、変圧器や変換プラグが必要なので準備しておいたほうがいいです。

留 学・語学研修等体験レポート（自由記述）

今回キャンベラ大学での語学研修に参加したことは、一生忘れることのない大変貴重な経験となりました。異文化交流や言語に興味や関心があったことから国際共生教育コースに入学し、いろいろな文化や英語について授業を通して勉強してきましたが、実際に海外で生活をし、その中であらゆる体験を通して見識をより広めたいと思い、研修に参加することを決めました。この1ヶ月間で、本当に多くのことを体験し、学び、考えることができました。

キャンベラ大学に通う毎日はとても楽しく充実していました。英語やオーストラリアの文化や歴史についての先生方によるレクチャーはとても面白く、もっと勉強したい、もっと知りたいという気持ちが湧くようなきっかけとなりました。先生方は分かりやすくはっきりとした英語で話して下さるので、あまり心配することなく授業が受けられたと思います。授業で紹介されたキャンベラ内にある建物やいろいろな場所に毎日のようにみんなで実際に出かけて観に訪れていたのは本当に楽しかったです。あんなに毎日歩いているいろいろな名所に出向くことなんてなかなかないし、とてもいい時間を過ごせたと思います。パーラメントハウスに行ったり、羊の毛を刈りに行ったり…本当にいろいろな所へ行きました。その他にはジャービスベイに行ったこと、また友人数名と週末の時間を使ってメルボルンを旅行したことなどは私の大切な思い出になりました。

大学に通う中で大変だったことが1つあります。それはステイ先から大学までの距離がバスで1時間半以上かかるほど離れていたことです。初めのうちは、毎朝早起きしなければならないこととバスの乗り換えを間違えないように気をつけることがとても大変だと感じていました。しかし、だんだん慣れていったので、バスに乗っている間は、その日にあったことを英語で日記に書き留めたり、日常会話で使う英語やオーストラリア英語を少しずつ勉強したり、ホストファミリーに話すことを考えたりして、長い通学時間を有意義に過ごせるようになっていきました。

オーストラリアでの1ヶ月間は、ホームステイをしていましたが、私のホストファミリーは、地元の小学校で教師として働く両親と子ども6人、私を含め日本からの留学生2人の計10名の大家族でした。彼らはとても親切に接してくれました。毎日一緒に楽しく食事をしたり、会話をしたりすることができて本当にうれしかったし、とても充実していたと思います。ホストファザーとマザーはとても穏やかな人たちで、いつも私のことを気遣って、困った時は親身になって相談に乗ってくれたし、毎日おいしいごはんやお菓子を作ってくれたり、楽しい話を聞かせてくれたりしていました。子どもたちはみんなとても明るく元気ですごく可愛かったです。積極的に遊びに誘ってくれたので、疲れている時も元気をもらいました。素敵な1ヶ月を送ることができたのは、素敵なホストファミリーに恵まれたおかげだと思っています。

オーストラリアで1ヶ月間実際に生活してみて、言語や生活様式の違いはもちろん、水不足の問題や先住民のアボリジニーの人々の生活を取り巻く問題の現状について知り、大変多くのことについて深く考えさせられました。異文化体験に関して言えば、日本では当たり前だと思っていたことがオーストラリア（また他の異なる国や地域）ではそうとは限らないということを実感する瞬間が多々ありました。このことから、何をする時でも常にステレオタイプの考え方や視点にとらわれるのではなく、広い視野を持った上で行動できることが大切だと学びました。「違い」の存在に戸惑ってしまうことは避けられませんが、本当の多文化共生を目指すならば、まずは異文化をもつ者同士がその「違い」の存在を認識しつつも、互いを認め合い、尊重しあうという姿勢を持つことが必要不可欠であると思います。水不足、先住民の生活の問題について言えば、私たちは世界のどこかで起こっていることをニュースやインターネットを通じて容易に知ることが可能にはなりましたが、その深刻さや現状については知らないことがたくさんあります。それゆえに、今回の研修を通して現地であらゆる問題の深刻さを実際に体感することができたことは、とても大きかったです。

ここには書ききれないほど、多くのことをこの研修を通して得ることができました。初めは参加することに不安も感じていましたが、本当に参加してよかったと思っています。たくさんの思い出と共に日本に帰国しましたが、研修での体験がきっかけとなり、英語をもっと勉強しようと思えたり、もっといろいろな文化に触れてみたい、いろいろな場所に渡ってみたいと思うようになりました。積極的に英語を使う時間が多かったことで、語学力が上がり、多くの人の考え方やものの捉え方に触れることで、人間的にも成長できる素晴らしい機会だったと思います。周りで支えて下さった全ての方に感謝しながら、オーストラリアでの体験を生かし、今後も精進したいと思います。